

今より一步、  
心地よい暮らしを考える。

松原電

7町エリア限定配布

ニュー  
ト  
ラ  
ル  
Neutral  
News

No.04

## あなたの選択が地域と未来を変える。 CO2フリー電気のススメ

ニュートラル  
ニュース  
特別対談

柏木さん  
(株式会社ONEX)

松原さん  
(おいでんエネルギー株式会社)

岡崎市  
ゼロカーボンシティ推進課

通常こちらの誌面では「となりのニュートラル」として、ご近所のあの人が取り組んでいる、暮らしを豊かに心地よくし、環境にもやさしい工夫をお伝えしています。今回は、「CO2フリー電気を皆さんにもっと身近に感じてもらいたく、特別対談をお届けすることとしました。お話ししたのは、町内会の連合体の30〜40代を中心に構成された任意団体から派生したまちづくり会社「ONEX」の柏木克友さん(以降:柏木さん)、CO2フリー電気を販売している「おいでんエネルギー株式会社」の松原俊介さん(以降:松原さん)、「岡崎市ゼロカーボンシティ推進課(以降:岡崎市)」です。

### CO2フリー電気とは何か？

柏木さん:皆さん、本日はよろしくお願います。早速ですが、CO2フリー電気について教えてくださいませんか？

松原さん:CO2フリー電気とは、発電時にCO2を排出しない電源に由来する電力で、つまりは太陽光、風力、水力などの再生可能エネルギーのことをいいます。日本の電気は、現在約8割が二酸化炭素の発生に伴う火力発電でつくられています。地球温暖化の主な原因である二酸化炭素は、その約4割以上が発電や電気使用により発生しています。

柏木さん:なるほど。CO2フリー電気

を使うことは地球にやさしいんですね。おいでんエネルギーさんが発売されているCO2フリー電気は地産地消ということですが、岡崎市でつくられているんですか？

松原さん:そうです。市内で発電された再生可能エネルギーを、市内に供給する取り組みを岡崎市と一緒に推進しています。そうすることで地域でお金が循環しますし、外部の電力供給に頼らずに、じぶんたちで電力をつくる・使うことができれば、災害に強いまちづくりにもつながります。

### 電気の切り替えは、意外に簡単

柏木さん:「有事に強い」ということは、CO2フリー電気を使うことがじぶんのためにもなるんですね。ちなみに、CO2フリー電気はどうしたら使用できるのですか？

松原さん:切り替えは簡単で、弊社ホームページのフォームからお申し込みいただけます。既存の電力会社への解約手続きは一切必要ありません。

柏木さん:それは簡単ですね。切り替えるのに複雑な手続きが必要かと思っていました。

松原さん:ちなみに、ネットの利用が難しい方は、書面での申し込みも可能です。

岡崎市:岡崎市もサポートをおこなっておりますので、お申し込みに不安がある方も安心してお手続きをいただけます。

### CO2フリー電気は高い？

柏木さん:ここまで話を聞いてきました。やはり気になるのは値段です。正直なところいかがですか？

松原さん:大手電力会社の電気料金より割安な料金設定にしています。一般的にCO2フリーメニューは高いのですが、それを企業努力で抑えて提供しています。

柏木さん:そだったんですね。なんと

なく高いイメージがありました。

松原さん:お得を理由に使ってほしいというわけではなく、せっかくだったらCO2フリー電気を使おうかな、と皆さんが選択しやすくなればと思います。

### 個人的な動機から始まった取り組み

柏木さん:そもそも、松原さんはなぜこの地産地消のCO2フリー電気の販売に取り組もうと思われたのですか？

松原さん:僕には娘が2人いて、恥ずかしながら、かっこいいお父さんに思われたいと思ったことがきっかけですね。次の世代のために僕らがなができるかを考えています。実は、僕は息子を3歳で亡くしているのですが、その子は人工呼吸器でずっと寝たきりだったんです。人工呼吸器は電気で動いていて、停電になったらこの子は死んでしまうのかと思うときに、電気が命に関わるということを感じました。だからこそ電気を扱う仕事をしている立場として、同じ電気でも次の世代、またさらに次の世代にもつながるような電気を広めていきたいと思います。

柏木さん:そんな背景があったんですね。松原さんが、企業努力を重ねてCO2フリー電気を広める取り組みをされていることがよくわかります。あとひとつ、利用者として気になるのは、電気の供給について、不安定になる可能性はありますか？

松原さん:停電しやすくなることはまったくありません。電力自由化で自由化されているのは販売の部分で、送電部分は中部電力パワーグリッドが管理しているので安定しています。通常の電気と同じで、地域で停電してしまったときには停電してしまいます。

柏木さん:なるほど、安心しました。災害時のバックアップ体制も変わらないということですね。

市からの支援策

柏木さん：市としても、導入する方への支援をおこなっていると聞きしました。

岡崎市：そうですね。岡崎市のCO2フリー電気を契約し、3か月以上ご使用の方に、協力金をお渡ししています。60アンペア（一般的な家庭の数値）の契約であれば12000円、オール電化で電気をたくさん使う方であれば最大20000円をお支払いします。

柏木さん：それはかなり魅力的ですね！

エネルギー自給率 向上の意義

柏木さん：最後に、あらためてこの地産地消CO2フリー電気についてどうお考えですか？

松原さん：日本のエネルギー自給率は12%程度で、それ以外は輸入に頼っています。世界のどこかで紛争が始まるとエネルギー価格が高騰してしまふ。日本はエネルギー資源がない国なので、CO2フリー電気を活用することで、いかに自給率を上げていくかが重要であると考えています。

柏木さん：地域レベルでも同じですね。外に頼るのではなく、できるだけ地域内で循環させる。僕は、地元の本屋が続いていくようにそこで本を買うようにしているのですが、それと同じ感覚だと思えます。

松原さん：まさにそうですね。個人、地域、国、どのレベルでも同じです。食料の備蓄と同

じように、エネルギーの備蓄も大切になってきています。

柏木さん：電力を再生可能エネルギーに切り替えることが、次の世代のためになること、そして地域内でお金を循環させることにつながると思うので、ぜひ読んでください。ニユートラルニュースも、ぜひ僕らと一緒に再生可能エネルギーを使っていきたいと思います。

\*再生可能エネルギー：太陽光、風力、水力、地熱、バイオマスなど、自然界に存在し枯渇することなく繰り返し利用できるエネルギー源のこと。  
\*CO2フリー電気：発電時に二酸化炭素(CO2)を排出しない電源に由来する電力。太陽光、風力、水力などの再生可能エネルギーが主に該当する。(CO2)を排出しない電源に由来する電力。太陽光、風力、水力などの再生可能エネルギーが主に該当する。



まちなか ニュートラル

「使い捨て」をなくす 紙袋の循環から生まれる リサイクルショップ

ここでは、まちなかにあるちょっと環境を考えた身近な取り組みをご紹介します。今回は、籠田町で古着やデザインシューズブランドを中心としたセレクトショップを営む「abundantism」(アバダンティズム)。アパレル業界を取り巻く様々な問題に向き合いながら、大量生産・大量消費が当たり前とされる世の中に、問いを投げかけるような商品の提案をしています。

同店では、リサイクル紙袋をショップパーとして活用。この取り組みは2020年の開店当初からおこなっており、まだ使える紙袋を店舗で回収し、イメージカラーである緑のテープを貼ったものを、商品を持ち帰る袋として再利用しています。

これは、ロングライフをテーマにした「ショップ」(SHOP & DEPARTMENT) (ティアンドデパートメント)での事例を参考に、紙袋購入費を抑えつつ環境配慮も実現できる方法として導入しました。ロゴが印刷された袋を使う方が宣伝効果は高いかもしれませんが、この取り組みに対するクリエイティブさを評価する方も多く、店舗とお客さまをつなぐコミュニケーションツールとしても機能しています。また、紙袋を寄付してくれた方には、お礼として駐車券を渡すなど、思いやりの循環も生まれています。



岡ゼロニュース

こんにちは！岡崎市役所ゼロカーボンシティ推進課です。今回は、特別対談で触れた「市からの支援策」について、ご案内します。

岡崎市では、環境にやさしい「岡崎市のCO2フリー電気」(以下「岡崎産再生エネルギー」)を多くの方に利用してもらうため、3か月以上ご利用の方に協力金を交付しています。この協力は、電灯契約の契約アンペア数に応じて支払うもので、10アンペアのご契約で2千円、20アンペアで4千円、30アンペアで6千円とアンペア数が10増えるごとに2千円ずつ、最大2万円まで支払額が増えていきます。詳しくは市HPに掲載していますので、ぜひこの機会に岡崎産再生エネルギーの利用をご検討ください。

ところで、みなさま岡崎産再生エネルギーで走るごみ収集車をご存じでしょうか。今年8月からこの地域を中心に運用しており、車両のデザインは愛知学泉大学の学生さんによるものです。岡崎産再生エネルギーの魅力が伝わる、とても素敵な仕上がりになっています。まちなかで姿を見かけたときは、ぜひ車両のデザインにも目を向けてみてください。

岡崎市では、今後もいろいろな形で岡崎産再生エネルギーの利用・普及を進めていきます。普段あまり気にすることのない電気ですが、日常のいろいろな機会を通じて、みなさまに魅力と大切さを感じてもらい、ご利用いただけることを期待しています。

ニュートラル ニュース とは

地域情報紙「ニュートラルニュース」は、QURUWA 7町エリア(亀井・籠田・連尺・東康生・南康生・唐沢・伝馬一丁目)で暮らす人や働く人たちの「今より一歩、心地よい暮らし」についてお届けします。そして、実はそれが環境にやさしい取り組みで、その輪を地域に少しずつ広げることを目指します。

バックナンバーはこちら！



発行元 ニュートラルニュース実行委員会 岡崎市ゼロカーボンシティ推進課  
発行月 2025年9月  
印刷 合資会社永田印刷所  
企画・編集 Micro Hotel ANGLE (合同会社シテン)  
ライティング Micro Hotel ANGLE (合同会社シテン)  
デザイン 岡田侑大 (ケルン)